

会 議 録

1 会議名

令和4年度第5回柿崎区地域協議会

2 議題(公開・非公開の別)

(1) 協議事項 (公開)

- ・地域活動支援事業に代わる事業の令和5年度予算編成に向けた取り組みについて(地域活動支援事業に関するアンケート調査結果を踏まえて)
- ・地域活性化の方向性の作成について
- ・空き家に関するアンケート調査結果及び空き家利活用に向けた助成チラシの送付について

(2) 報告事項 (公開)

- ・J-ホールディングスグループの整理について
- ・日帰り・宿泊温浴施設の今後の方向性の検討について
- ・柿崎区地域協議会各種委員会からの活動報告

(3) その他 (公開)

3 開催日時

令和4年7月19日(火) 午後6時から午後7時45分まで

4 開催場所

柿崎コミュニティプラザ3階 305～307 会議室

5 傍聴人の数

2人

6 非公開の理由

なし

7 出席した者(傍聴人を除く) 氏名(敬称略)

- ・委員: 吉井一寛(会長)、薄波清美、貝谷雅子、片桐宏樹、片桐充、小出祥世、
小山慶、武田正教、中村誠、箕輪明男、蓑輪和彦、吉村正
- ・施設経営管理室 青柳副室長、小関係長

- ・行政改革推進課 手塚課長、島田副課長
- ・事務局：柿崎区総合事務所 新部所長、柿村次長、小林次長、滝澤産業グループ長、田原建設グループ長、池田市民生活・福祉グループ長、小林教育・文化グループ長、熊木地域振興班長、大場主査

8 発言の内容（要旨）

【柿村次長】

- ・地域協議会の開会を宣言。
- ・岩野秀樹委員、白井一夫委員の欠席を報告。
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第 8 条第 2 項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告。
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第 8 条第 1 項の規定により、会議の運営は会長が行う旨を説明。

【吉井会長】

- ・会長挨拶。
- ・会議録署名委員に片桐宏樹委員を指名。
- ・報告事項(1)の Jーホールディングスグループの整理についての説明を依頼。

【青柳副室長】

- ・日頃から当市の施設管理、市政全般に対しご理解、ご協力をいただき感謝申し上げます。
- ・Jーホールディングス株式会社は、平成 25 年 9 月に温浴宿泊施設の管理運営を行う第 3 セクター7 社の持ち株会社として設立し、以後、事業会社の経営健全化と将来的な民営化に向けた取組を推進してきた。
- ・しかしながら、少雪やコロナ禍の影響を受け、株式会社キューピットバレイと三和振興株式会社が解散し、本年 6 月末にはゆめ企画名立の株式譲渡による民営化が成立し、事業会社が当初の 7 社から 4 社に減少した。
- ・事業会社の減少に伴い、グループの経営規模が縮小し、ホールディングスとして、スケールメリットが活かさない状態。
- ・また、事業収入がない Jーホールディングスグループの存続には、事業会社の負担が必要であり、継続には固定経費が必要となるといった課題もある。

- ・ こういったことを踏まえ、昨年 12 月の市議会においてグループの抜本的な整理を行う旨を説明し、この間、Jーホールディングス株式会社と協議を続け、整理方針案の合意に至った。
- ・ まずは、整理方針案について株主のほか、関係者に説明し、理解を得て進めていきたいと考えている。
- ・ 本日は時間を頂き、担当から説明する。

【小関係長】

- ・ 資料 3 により、Jーホールディングスグループの整理について説明。

【吉井会長】

- ・ 委員の皆さんから質問等あるか。
(なし)
- ・ ないようであれば、私の方から 1 つ。株式という資産が一切無くなる中で、市として残った 4 社をどうしたら運営していけるのかという方向性はあるか。

【小関係長】

- ・ 資産がすべて無くなるというよりは、解散になるため、会社と株主との関係が無くなる際に、残余財産の一部を分配することにより、資産の一部をお返しするというご理解いただきたい。これは、通常会社法法人の解散と同じ手続きとなり、資産をすべてお返しして終わるということである。
- ・ 取組の方向性は、現在、Jーホールディングス株式会社と事業会社の間で、どのような取組ができるかについて、経営コンサルタントを交えながら検討している。
- ・ 各 4 社で個別に持っているのと、各 4 社に固定経費が発生する。私どもとしては、その一部を集約化することにより、削減、つまり効率化ができると考えており、その上では、必要な取組と考えている。
- ・ また、細かい効果については、必要に応じて議会等で説明していきたいと考えているが、概ねの事業計画については、8 月から 9 月頃にお示しできると考えている。

【吉井会長】

- ・ 一例として、ゆめ企画名立が長野県の会社に譲渡されたが、新しい事業会社もそのような形を想定しているか。

【小関係長】

- ・まだ案の段階であり確定ではないが、今現在、民間の資本を借りるということは、想定していない。自助努力の中で、経営の健全化を図りたいと考えている。

【吉井会長】

- ・了解した。
- ・私から基本的な質問をさせていただいたが、他の委員の意見等ないか。
(なし)
- ・この件についてはこれで終わりとする。
- ・次に(2)日帰り・宿泊温泉施設の今後の方向性の検討についての説明をお願いする。

【手塚課長】

- ・資料4により、日帰り・宿泊温泉施設の今後の方向性の検討について説明。

【吉井会長】

- ・委員の皆さんから質問等あるか。

【小出委員】

- ・今の経営と市が直接に持った経営では何が良くなるのか。
- ・民間需要調査は、どういった会社をお願いする予定か。また、どのようにその会社を決めるのかを聞きたい。

【手塚課長】

- ・日帰り・宿泊温泉施設については、市が所有している施設であり、指定管理者制度により、第3セクター等の会社が現在、施設を運営している状況にある。
- ・第3セクター等の皆さんからは経営健全化に向け、ご苦勞いただいているが、なかなか経営が改善されない中で、利活用や経営面の改善について、今の会社以外の方々からも幅広く提案を受け、色々な材料を集めた中で、今後の施設の運営または在り方について検討していきたいと考えている。
- ・民間需要調査は、民間調査会社に依頼するものではない。令和元年度に実施しているが、コロナ禍の影響もあり、次のステップに行けなかったため、もう一度チャレンジをするものである。
- ・調査方法は、公募という形になり、ホームページ等により周知を行うが、幅広く各種団体、金融機関等に調査依頼をする中で、様々な提案をお聞きしたいと

考えている。

【小出委員】

- ・例えば星野リゾートみたいなところを買ってくれないかどうかを探したいということか。

【手塚課長】

- ・ホテル関係、それ以外のサービス業からの提案もあるし、異業種からの提案もあるかもしれないと考えている。

【小出委員】

- ・特養に使えるかもしれないし、星野リゾートが買ってくれるかもしれないし、ということコロナもあって売りに出そうと思ったが、うまく調査がなかなかだったため、今回は、本気で民間譲渡につなげたいということか。

【手塚課長】

- ・民間需要調査は、そのための材料集めをしようということであり、市が直ちにマリンホテルハマナスを廃止するということを決定しているわけではない。
- ・今後、皆さんと議論をする際に何も無い中で、議論はできないため、民間事業者のアイデア等を次の段階では、皆さんにフィードバックをした上で、この施設の在り方をどうしましょうかという議論を一步前に進めていくための取組であることをご理解いただきたい。

【小出委員】

- ・そのために今の状態ではなく、市が直接運営した方が良いということか。

【手塚課長】

- ・今のように市が所有し、指定管理者制度という形で運営する方法がいいのか、施設を星野リゾートのような民間の会社から引き取ってもらえるのかどうかというところを踏まえ、あらゆる可能性を探りたい。

【小出委員】

- ・今の指定管理者を一括して管理するのは、市が管理するということか。

【手塚課長】

- ・日帰り・宿泊温泉施設のうち、J-ホールディングス株式会社と傘下の事業会社の指定管理については、今回、J-ホールディングス株式会社を整理し、残った事業会社の間で、統合との方向にあるが、統合された事業会社が引き続

き、各施設の指定管理を受けることになる。施設は、市が所有する建物であり、管理は第3セクターということになる。

【小出委員】

・その状態は、変わらないままか。

【手塚課長】

・今後の議論の中で、施設の所有や運営主体が変わる可能性はある。

【小出委員】

・変わる可能性を含めて、この調査をするということか。

【手塚課長】

・これからやろうとしている調査は、施設の利活用や経営面の改善について、今の会社以外の方々からも幅広く提案を受け、様々な材料を集めた中で、今後の施設の運営または在り方について検討するもの。市がどこまで関与するのか、また、全て民間に移行できないかの可能性を探りたいと考えている。

【吉井会長】

・他の委員の皆さんから質問等あるか。

【蓑輪委員】

・民間需要調査とは別に市が全国的な成功事例を調べる予定はないか。

【手塚課長】

・公設の温浴施設の統廃合問題は、全国的な事象であり、事例集めは行っている。例えば、宿泊温浴施設を高校の寮に改装し、温泉の大浴場については日帰り温浴として地元の方に開放しながら、高校生との交流を育み、地域の活性化につなげている事例や地元以外の事業者の方が、その温泉の魅力を感じ、その温泉施設の再生を担っているというような事例もある。

・民間需要調査が終わった段階で、皆様方にこのような優良事例についても情報提供を行い、今後の方向を探りながら、施設の活性化に向けた対応策を検討したいと考えている。

【蓑輪委員】

・民間需要調査も行うし、行政としても全国の自治体の事例を調べながら検討していくと理解してよいか。

【手塚課長】

- ・今ほど申し上げたとおりである。皆様方からも優良事例や事業者の情報をお寄せいただき、様々な角度から話し合いができればと思っているので、力添えをお願いしたい。

【吉井会長】

- ・他にないか。
- ・私から追加で指摘したい。
- ・施設経営管理室と行政改革推進課が別々に来て、同じ説明をすること自体がおかしいのではないかと思う。市は縦割りである。片やJーホールディングスを解散するという話をした後で、片や今は非常に厳しいので、こんな改革をするという話をしており、市として一貫性がないと思う。
- ・私は地域協議会2期目であるが、1期目の最初からマリンホテルハマナスについてどうするかという話が出ていた。
- ・最初の時は1億円から資産があったが、今は3千万円しかない。たかが5～6年しか経っていない間に6千万円ほど資産が目減りしている。
- ・私は最初からお金があるうちに売却するか他に譲渡して民間に入れた方がいいという指摘をしている。
- ・今回、Jーホールディングスを解散することは、株主にお金を配って身軽にして、市が自由に采配できるという形にしたいためと思われる。そのこと自体は悪いことではないと思うが、もっと早く、もう遅いぐらいであるが、受入先を早く探すべきである。市が運営していたら無理である。何年やっていたのかと言いたい。私からの指摘は以上である。
- ・他の委員の皆さんから意見等ないか。
(なし)
- ・説明に感謝する。最後、厳しいことを言ったが。

【手塚課長】

- ・会長からのご指摘のとおりである。施設の在り方についてこの間、議論が進んでこなかったというのが現状である。お詫び申し上げる。
- ・縦割り行政で問題の所在2つの課に分かれているのではないかということだが、実は今、行政改革推進課と施設経営管理室が一体となってこの問題に取り組んでいる。

- ・ 今日、施設経営管理室が話をしたのは、Jーホールディングスを解散して、体質を変えていく取組をまず先にする。
- ・ その上で、今日私が説明した様に施設の在り方と第3セクターについては、切っても切れない関係であるため、次のステップの中で、より良い形での経営改善を図りたい。いずれにしても地域の皆さんから十分な理解と納得を得ながら進めて参りたいと考えていることからお力添えをお願いしたい。

【吉井会長】

- ・ 説明に感謝する。
- ・ それでは報告事項の(1)(2)についてこれで終了する。
- ・ 4 協議事項(1)地域活動支援事業に代わる事業の令和5年度予算編成に向けた取り組みについて、事務局から地域活動支援事業に関するアンケート調査結果の概要説明をお願いする。

【熊木班長】

- ・ 今年度の地域活動支援事業については、9 団体から 10 事業の応募があり、6 月 7 日に 10 事業すべてを採択していただいた。
- ・ 今年度をもって地域活動支援事業が終了することから、地域活動支援事業費補助金を活用し実施してきた地域活動を、来年度以降も継続して実施できるよう協議の参考とするため、採択団体の 9 団体を対象に、「地域活動支援事業に関するアンケート調査」を実施した。
- ・ アンケート用紙の配付、回収は、6 月 8 日に「地域活動支援事業の提案に関する結果通知書」にアンケート用紙を同封し、6 月 24 日までに補助金交付申請書の提出と併せて提出していただいた。
- ・ 来年度の事業計画については、アンケート調査の質問 1 になるが、今年度で事業が完了する 1 事業以外、地域活動支援事業終了後も事業の実施を計画している。
- ・ 質問 2 で、その財源をお聞きした。事業実施にあたっては事業の縮小や、財源を会員の会費、参加費、寄付金、協力金、協賛金などで賄うとしている。
- ・ また、質問 3 で新たな補助制度をお聞きしたところ、全団体が地域活動支援事業に代わる補助制度の創設を希望している。
- ・ 地域活動支援事業費補助金を活用して実施してきた地域活動の継続実施に向

けた、令和5年度予算編成の取り組みの協議をお願いしたい。

【吉井会長】

- ・事務局からアンケート調査結果の報告があった。
- ・来年度事業実施を計画している9事業の全てを令和5年度予算に提案するかどうかを皆さんに協議していただきたい。
- ・市長は、6月29日に強く言っていたのは、ハード事業には金を出さないと主張していた。
- ・については、我々としてはハード事業を取り上げないで、ソフト事業に限って事業申請をしたらどうかというのが私の考えである。
- ・密蔵院周辺の整備および米山登山道古道整備事業、ドーム周辺花いっぱい事業、第5回手しごと・手づくり柿崎・上越作品展、黒川・黒岩ふれあい事業、柿崎時代夏まつり「下黒川地区夏まつり」事業、この5事業については、ソフト事業と考えられるので、事業申請をしたらどうか。
- ・それ以外については、ハード事業として捉えられるため、今回は見合わせた方がいいのではないかというのが、私の考えである。
- ・桜を植えることによって何かをするという形にしないとソフト事業にならないのではないかと思うため、この辺を皆さんから議論していただき方向性を出したい。
- ・皆さんからの意見を願います。

【小出委員】

- ・私は全部ソフト事業と見ていた。見方によって違うと思う。ハード事業とソフト事業は線を引にくいと思うため、何がハード事業で何がソフト事業なのかを示してもらった方が良い。

【武田委員】

- ・市長が言うハード事業とは、何かを買うとか何か道具を揃えるとかいうものだと思う。
- ・柿崎区の地域活動支援事業は、地域に根差したものとなっているので、全て地域を活性化するためのソフト事業であるという方向付けだけしっかりして提案すればいいと思う。

【吉井会長】

- ・今、2人から意見が出たが、全員から意見を聞きたい。

【中村委員】

- ・9事業すべてソフト事業として申請した方が良いと思う。

【小山委員】

- ・どれがソフト事業でどれがハード事業かを区別するのは難しい。すべての事業について申請できるのであればしてあげたい。

【片桐充委員】

- ・申請が通るか通らないか分からないが、すべて申請し判断を仰ぐ方が良い。
- ・今年度申請した以外の団体も申請したい団体があるかもしれないので、その辺も考えなければならないと思う。

【片桐宏樹委員】

- ・全て提案し、行政から判断してもらえば良いと思う。

【箕輪委員】

- ・全ての事業について認めてもらいたい。

【蓑輪委員】

- ・全て申請し、行政に全て投げ掛けて、その上でこれは市長の考えにのっとっているものとしてハード事業、ソフト事業の事例を作ってもらうしかないと思う。
- ・また、新しくやりたいという団体をどう救い上げていくかが課題だと思う。

【吉村委員】

- ・全て提出した方が良いと思う。ハード事業かソフト事業かという判断は、行政からしてもらった方が良いと思う。
- ・新規事業については、令和6年度になることから、その時にどの様に拾い上げていくかは検討すれば良いと考える。

【貝谷委員】

- ・全て提出して行政の意向を仰ぐというのが良いと思う。

【薄波委員】

- ・地域活動支援事業は以前からハード事業はだめという方針であり、柿崎区はそれに沿って、ハード事業を除外してきた歴史がある。その中で残ってきた事業が今ある事業のため、柿崎区で今年度採択し、来年度希望する事業につ

いては、上げてても良いと思う。

【吉井会長】

- ・ 全員から意見をいただいた。今日欠席の岩野委員と白井副会長からは聞いていないが、12人の意見を集約すると、我々が採択をしてきたのは全てソフト事業であるということで、来年度希望する事業については全て提案するというので、柿崎区地域協議会として、総合事務所の方に予算化に向けて依頼するというのでいきたいと思う。よろしいか。

(はいの声)

- ・ どういう形で提案していくかについては、正副会長と行政側で詰めていきたいと思う。来月の地域協議会で皆さんに報告ができればと思う。
- ・ 新規の要望については、我々は今動けない状況である。行政側の仕組みができてきあがると思うので随時情報をいただき対応したいと思う。よろしいか。

(はいの声)

- ・ はい。それでそういう形で対応する。
- ・ 次に協議事項(2)地域活性化の方向性の作成について私の方から説明する。7月12日までに皆さんから方向性についての意見を出していただくようお願いし、数名の方から提出していただいている。
- ・ 6月29日の市長との懇談会の時に地域協議会にお願いする3つのことを聞いた。1つ目は地域団体の意見を広く聞いてほしい。2つ目は地域の宝を探してほしい。3つ目は新規で地域の方向性を作成してほしいというものだった。
- ・ 我々としては地域活性化の方向性を作成するに当たっては、まず地域団体の意見を聞いて、地域の宝を探して、それからビジョンを作っていくという形の段階を踏まないことには、出来上がらない。皆さんから意見を集めてビジョンを作ろうというのは、順序が逆だと思うため、来月もう一度仕切り直しをした後で、皆さんと方向性を探っていきたいと思う。
- ・ これは、今年度中に着手ということで、そんなにあせって方向性を作る必要がないため、じっくり構えていきたいと思う。意見等ないか。

(なし)

- ・ ではこの方向でいきたいと思う。
- ・ 次に協議事項(3)空き家に関する空き家に関するアンケート調査結果及び空き

家利活用に向けた助成チラシの送付について、事務局からアンケート調査結果について説明をお願いします。

【熊木班長】

- ・空き家に関する空き家に関するアンケート調査結果について、資料1により説明。
- ・チラシの内容等の概要については菘輪委員長から説明をお願いします。

【菘輪委員】

- ・空き家利活用に向けた助成チラシについて資料2により説明。
- ・柿崎区地域協議会として出すチラシとなるため、皆さんからご意見等をいただきたい。

【吉井会長】

- ・これを各町内会への回覧と協力していただける町内会にその部数を配布し、空き家所有者へ送付していただくというのが趣旨である。
- ・意見、指摘はあるか。
(なし)
- ・賛同する委員は挙手願う。
(全員挙手)
- ・それでは、全員挙手ということでこれをスタートする。
- ・次に報告事項(3)柿崎区地域協議会各種委員会からの活動報告ということで、空き家活かそうプロジェクト会議の菘輪委員長から報告をお願いします。

【菘輪委員】

- ・資料6により第18回柿崎空き家活かそうプロジェクト会議について報告

【吉井会長】

- ・質問等あるか。
(なし)
- ・続いて、みんなの保育園を考える会について、小山委員長からお願いします。

【小山委員】

- ・資料5により第4回みんなの保育園を考える会について報告

【吉井会長】

- ・質問等あるか。

(なし)

- ・その他に移る。今後のスケジュールについて事務局から願います。

【熊木班長】

- (1) 第3回地域協議会だより編集委員会の開催について説明
- (2) 第5回みんなの保育園を考える会の開催について説明
- (3) 第19回柿崎空き家活かそうプロジェクトの開催について説明
- (4) 柿崎まちづくり振興会主催 合同研修会の開催について説明
- (5) 第6回柿崎区地域協議会の開催について説明

【吉井会長】

- ・市議会総務常任委員会が地域協議会を視察するという事で来られる。
- ・他に委員からその他ということであるか。

(なし)

- ・地域活動支援事業に代わる件について、地域協議会から柿崎区総合事務所の方をお願いしたということで、今後、来月の地域協議会に向けてどういう形ですか、或いはどういう形で行ったかという話にこれからはなっていくかと思うのでよろしく願います。
- ・他になければこれで終了する。
- ・今日は副会長がいないため、私が閉会をする。
- ・地域協議会の閉会を宣言。

(午後7時45分閉会)

9 問合せ先

柿崎区総合事務所総務・地域振興グループ

TEL : 025-536-6701 (直通)

E-mail : kakizaki-ku@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。